



産業・経済・労働

誰でも高速バスを利用できるように

Q 最近、足の不自由な方や荷物の多い方の高速バス利用が増えている。大村IC高速バス停にはタクシートの乗り入れができないことから、20段の急な階段を上らなければならない。道交法に基づき警察署長の許可を受ければタクシートの乗り入れが可能になるのではないかと考えるが、実現できないか。

A 法令の規定により路線バス以外の通行はできない。西日本高速道路株式会社、長崎県公安委員会、長崎県警高速道路交通警察隊で勉強会を設置し、研究していくが、その中でタクシー乗り入れの要望が強いということをお願いしていきたい。

競艇事業について

Q これまで市の発展に大きな貢献を果たしてきた競艇事業であるが、今後の展開として新たな施策を考えているのか。

A 公営競技が厳しい環境にある中、場外発売場の展開や新しい発想と手法により他場との差別化を図っていく必要がある。大村競艇においては、新規の場外発売場の開発に力を注ぐとともに既存の場外発売場の支援などを行い、経営改善に努めていく。また、薄暮レースの開催を決定しており、電話投票や場外発売、他場発売において新たな誘客を図りたい。

競艇場の建替えについて

Q 施設建替えのコンセプトの一つとして集客力と発展性のある施設と掲げてあり、デパート方式により複数のゾーンを新設し、幅広いお客様に支持され、来場者のアップを図るとしている。具体的にどういうことか。

A デパート方式とは、デパートの何々売場といったお客様層に応じた複数のゾーンを設ける方法であり、レイアース・カッブルシート、グループ席、初心者や若者向け専用の特別観覧スペースを設けることとしている。また、地域コミュニティの場として、各種イベントに活用できる屋内型のイベントホール、フードコート、キッズルームなどを配置したいと考えている。



教育・文化・スポーツ

学校司書配置の今後の見通しは

Q 学校図書室の持つ学習センターとしての機能を強化する目的で、小学校2校に学校司書が配置される。この2校はどういう基準で選ばれるのか。また、今後、学校司書を増やしていく考えはあるのか。

A 大規模校と小規模校の小学校への配置を考えている。学校側の要望、アンケート結果をもとに学校長と面談しながら配置する学校を決める。今後の配置のあり方については、具体的な活用事例や効果等を調査、検証した上で検討を進める。

市独自の学力・体力検定試験を提案

Q 兵庫県小野市で取り組まれている、成果を上げている先進事例のように、独自のメソッドを持つている方と連携しながら市独自の学力・体力検定試験に取り組んでどうか。

A 大村市では、いくつかの検定に類したテストを行っているが、それ以上に学習の質を上げていきたいと思っている。現在のところ市として実施する考えはないが、すばらしい取り組みであるので各学校にはぜひ紹介したい。

テニスコートの整備について

Q テニスは三世代交流など教育的価値が高いスポーツであるにもかかわらず、テニスコートは他の競技と比べて明らかに施設が不足している。現在の施設の利用状況や使用料収入の状況から十分に費用対効果を発揮でき、早急にテニスコートを整備すべきである。

A テニスの愛好家は老若男女にわたり非常に多いにもかかわらず、公的な施設が4面しかない。市民や議会の理解を得て、旧市民体育館跡地を第1候補地として長崎がらばらんば国体終了後の平成27年度に建設着工する方向で検討したい。平成24年度中に結論を出したい。